

# 荒天時における八戸港錨泊時の遵守事項

荒天時において八戸港内に錨泊する際は、八戸港の特徴を踏まえ、以下の事項を遵守し、走錨に伴う他の船舶や防波堤などへの衝突のほか、浅瀬などへの乗揚げを防止して下さい。

## 【八戸港の特徴】

重要

- ▶ 港口が北に開いているため、北方向の風浪・うねりが直接及び防波堤を超えて侵入してきます。
- ▶ 年間を通じて西寄りの陸風が最も多いが、台風・低気圧が八戸港の南側を通過する際には、東寄り又は北寄りの風が強まります。
- ▶ 港則法第39条第4項の規定に基づく勧告（避難勧告）が発出された際は、錨泊自粛海域が設定されます。

（勧告発出基準及び錨泊自粛海域の詳細は、八戸海上保安部HPを参照）

## 【遵守事項】

重要

- ❑ 船橋に24時間守錨当直を配置し、走錨海難を防止すること。
- ❑ 国際VHF（船舶電話含む）を常時聴取すること。
- ❑ 直ちに転錨などができるように常時主機関をスタンバイさせておくこと。
- ❑ AISを搭載している船舶は、常時電源をONとすること。
- ❑ 保船要員を確保し、不要な船員の乗下船を避けること。
- ❑ 八戸港における船舶代理店を必要に応じ設定しておくこと。
- ❑ 気象海象が回復されしだい、速やかに目的地に向かうこと。
- ❑ 港則法に基づく勧告（避難勧告）が発出された際は、錨泊自粛海域への錨泊は避けること。



第二管区海上保安本部  
八戸海上保安部

# 走 錨 防 止 対 策 ！

## Point 1

### GPS・AIS・レーダー・ECDIS等の活用

- ◆ 自船及び周囲の船舶の錨泊状況（振れ回り運動、船位、船速等）の監視、気象海象の確認、無線の聴取を行い、適切な守錨当直の励行と徹底を実施して下さい。

## Point 2

### 主機関・スラスターの併用

- ◆ 強風等の場合、錨だけで船位を保持するのは困難です。必ず、主機関・スラスターを直ちに使用できる状態にして下さい。
- ◆ 走錨の可能性がある場合には、主機関・スラスターを使用して、船首を風に立て、船位を保持して下さい。

## Point 3

### 大型船等による錨泊時のリスク軽減

- ◆ 大型船舶（特に高乾舷船）は、風圧面積が大きく、走錨するリスクが高いため、荒天時は錨泊を自粛して下さい。
- ◆ 走錨又は走錨の可能性がある場合と判断される場合は、沖に避難しドリフトやダイレクトオンバースなどの対応を検討して下さい。
- ◆ 外国人船員が乗船する船舶や初めて入航する船舶は、八戸港の特徴や海域特性など不案内であることが予想されますので、適切な情報入手（提供）を行って下さい。

### 走錨事故防止に役立つ情報



#### 走錨事故防止ポータルサイト

（海上保安庁交通部航行安全課）

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/mission/kaijyoukoutsu/soubyo.html>

走錨事故防止に役立つ以下のような情報を掲載しています。

- ・台風進路図、外洋波浪予想図
- ・東京湾、伊勢湾、瀬戸内海の錨泊船舶の状況図
- ・灯台等で観測した風向・風速等に関する情報
- ・投揚錨作業と事故防止、台風を錨泊避航した状況等、船員教育に役立つ動画情報 等々